

1 研究テーマ 「自己の生き方を追求する道徳の時間のあり方」  
～かかわりを大切にしたい話し合いを通して～

2 はじめに

社会状況の急激な変化は、子どもたちの心と体にも大きく影響を及ぼしている。このような状況の中で、子どもたちが今の自分を見つめ、将来の生き方に夢や希望をもてるようにすることは大切なことである。よって、自分と向き合い自己の生き方を考えていく道徳の時間は大切な時間となる。しかし、道徳の時間の課題として、指導の形式化、学年が上がるにつれて子どもの受け止めがよくない等の指摘がある。

そこで、自分の感じ方や考え方を友達とかかわらせる話し合いの場に視点をおき、話し合いを通して自分の生き方を考えていけるような授業づくりに取り組んだ。

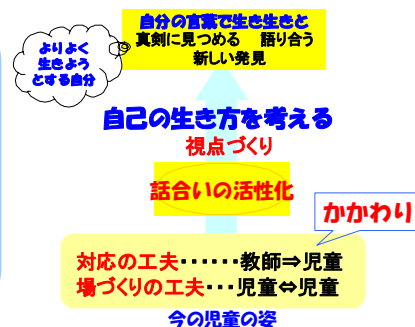
3 研究目的

- ◆話し合いを通して自分のあり方を見つめる視点を探し、それをもとに自己の生き方を考えていくことをめざした授業展開を探る。

仮説

道徳の時間において、次の2点に着目して、話し合いを深める工夫をしていけば、感じたことや考えたことを友達と語り合い、今の自分を見つめ、これからの自分のあり方を前向きに考えられる子どもに育つであろう。

- (1) 少人数でのかかわりを強めるための教師の対応や場づくりの工夫
- (2) 自己のあり方を見つめるための視点的な学習展開

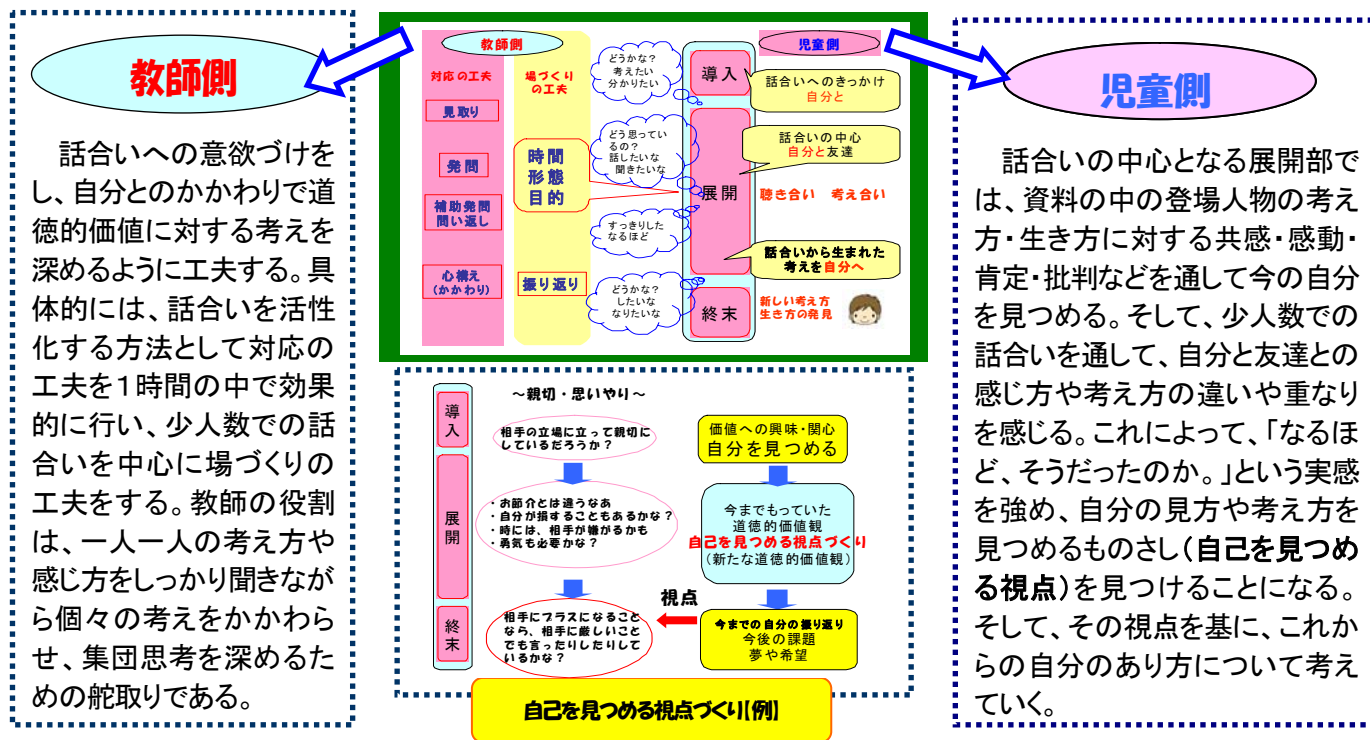


4 研究内容

(1) 話し合いを中心とした授業づくり

話し合いを活性化させるためには、話し合いの中心場面だけに視点を当てて工夫するのではなく、そこに至るまでの意欲付けや話し合いが自分への問いかけにつながることを意識して、学習過程を工夫する必要がある。

【話し合いを中心とした1時間の流れ】



## (2) 授業の実際と考察

### ① 少人数での話し合いについて(場づくりの工夫)

1時間の学習の中に少人数(4~6人)で話し合う場を必ず設定した。話し合いに入る前に、何のために少人数で話し合うのか**目的**を子どもたちに明確に示すことで、意欲をもって短時間で話し合いに入ることができた。

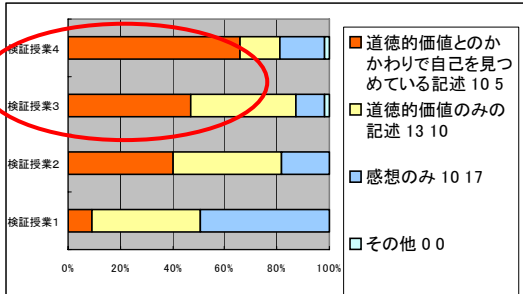
#### 【目的の例】

なるべくたくさん話して、いろいろな考えを聞こう。  
 黒板にない考えを班の友達から探しながら聞こう。  
 ○○ってどういうことなんだろう。みんなで考え合おう

児童の振り返りシートを元に、それぞれの授業について目的と形態の観点から分析した。

検証授業1, 2のように聴き合いを目的とした話し合いでは、全体での話し合いに抵抗のある児童も話すこと・聞くことに満足していた。検証授業3, 4については、こだわりを協力して解決したり、考えを深めたりすることを目的としたので、自分から話すことに難しさを感じる児童もいた。しかし、自己を見つめる視点を発見できた学習だったので、自分とのつながりで振り返ることができた児童が多かった。

主題名・資料名	目的	形態
検証授業1 目標をもってやりぬく「きょうなら ドラえもん」 1-(2)希望・勇気・努力	聴き合い 安心感・満足感	班→全体
検証授業2 違う意見を受け止めて「同じならうかな?」 2-(4)個性尊重	聴き合い	班→全体
検証授業3 自由を大切に「一箇の夜」 1-(3)自由・責任	高め合い 協力	班→全体→班
検証授業4 自分らしく生きる「ドラえもん」 1-(6)向上心・個性伸長	自己の生き方へ 協力 解決	班→全体→班→全体



### ② 対応の工夫

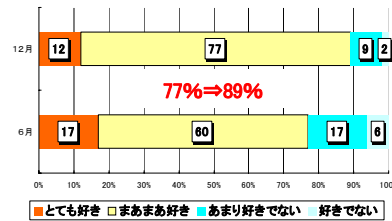
話し合い、かかわり合いが大切だとわかっていても、はじめからうまく話し合うことは、なかなかできない。そこで、教師のはたらきかけやかかわりは、とても重要な働きをする。子どもから出た多様な意見を問い返し、教師のかかわりで比較したり検討したりすることで、学級の中に新しい問いが見つかるような話し合いを工夫していく。

#### 【問い返しの例】

○○さんの言いたいことはどういうことかな?  
 もう少し詳しく説明してくれないかな?  
 AさんとBさんはどんなところが同じかな?

### ③ 子どもの意識の変容

6月と12月で比較してみると、道徳の時間について、肯定的意見が増加した。特に否定的な意見が全て肯定的に変化した。理由としては、自分の思ったことが言えること、班の話し合いにおけるかかわりの楽しさを感じていることが挙げられる。



#### 【好きな理由】

資料や副読本 5人  
 友達とのかかわり、話し合い 18人  
 自分の生き方 11人  
 発表 13人  
 考えること 7人

#### 【抽出児童】

児童A 本を読むのが嫌い  
 ⇒いろいろ発表できる  
 児童B 発表たくさんするから嫌い  
 ⇒答えがなく自分の考えが言える  
 児童C 人の気持ちを書いたり発表したり嫌い  
 ⇒班で話し合うのが好き

## 5 研究のまとめ

- 少人数での話し合いの場を中心に教師の対応の工夫や場づくりの工夫をすることで、友達と語り合うことに楽しみを感じる児童が増え、友達の発言を言い換えたり、説明したりするなどのかかわりも強まった。
- 少人数での話し合いにおいて、何のための話し合いか子どもたちに明確に示すことで、子どもたちの話し合いが深まった。
- 自分みつめの視点をみんなで探していくことをめざした学習展開を取り入れたことで、ねらいをより自分のこととして捉え、自分について素直に振り返り、これからの自分のあり方について前向きに考えられる児童が増えた。

## 6 今後の課題

- 話し合いの前提として……
  - ・温かい人間関係
  - ・話し合いの技術・技能
- 考えを持たせるために……
  - ・多様な学習活動の工夫 (体験、単元的な学習過程)
- 発言をつなげるために……
  - ・多様な価値観を整理したりまとめたりする技能を高める

## 7 おわりに

授業の流れを意識しすぎると、どうしても教師主導の流れになってしまう。特に高学年になると流れが見えた授業は退屈であり、本音で語らなくなる。子どもがしっかり考えるまで待ち、本気で話を聞き、発言をつなげたり、深めたりすることで話す楽しさを味わわせることが大切だと考える。「子どもと授業をつくる」という心構えを忘れずにいたい。